

## 環境に配慮した次世代型工場増設

### (株)ホンダトレーディングアルミニウムと立地協定

アルミニウム合金の製造・販売を手がける「株式会社ホンダトレーディングアルミニウム」(本社：群馬県)が、大津町平川に工場を増設することとなり、上田哲也県商工労働部長立ち会いのもと、10月24日に町と立地協定を締結しました。水口浩太郎代表取締役社長は、「アルミニウム事業スタートの地で次世代低炭素型の工場を増設することで環境に配慮しつつ、安定供給に努めています」と述べました。



協定書を手に持つ金田町長(左)、(株)ホンダトレーディングアルミニウム 水口代表取締役社長(中央)、上田県商工労働部長(右)

## 半導体工場向け部品洗浄工場が完成

### フェローテック新工場が完成

株式会社フェローテック(本社：東京都)のグループ会社であるフェローテックテクノロジーデベロップメントジャパン株式会社の新しい工場が杉水に完成し、10月29日に竣工式が行われました。新工場では、半導体製造装置内の部品などの洗浄を行います。賀賢漢代表取締役社長は「部品洗浄からさまざまな事業につなげていきたい」と述べ、地域との連携にも意欲を示しました。



完成した新工場

## いくつになっても自分らしく

### やさしさを伝えるケア「ユマニチュード®」を学ぶ

在宅医療・介護連携推進多職種研修会を10月24日、町生涯学習センターで開催しました。今回の研修会では、ケア技法「ユマニチュード®」をテーマにした講演会が行われ、地域の皆さんや医療・介護の専門職など、約100人が参加しました。「あなたのことを大切に思っています」と伝えるケアの大切さが紹介され、参加者からは「認知症であるないに関わらず、人との関係の作り方、より良い関係を作るために今日の話がとても役立ちそうだと思った」などの感想が寄せられました。



日本ユマニチュード学会認定インストラクター  
講師 水上智美さん

## ボランティアできれいな町に

### 建設業組合によるボランティア活動

町の建設業組合が主体となり、電気・機械設備組合、造園業協同組合の約100人が10月8日、ボランティア活動を実施しました。この活動は、町民の皆さんに安全できれいな道路を使ってもらいたいとの思いで実施しています。役場前で行われた出発式では、代表の宇都宮誠二組合長のあいさつの後、重機などを利用し室小学校や大津小学校周辺の草刈り、道路にはみ出した枝の伐採、水路に堆積していた土砂の撤去など、手際よく作業を実施しました。



⑥道路にはみ出し、通行に支障がある枝の伐採を行う組合員  
⑦出発式では、内田副町長㊨に社会貢献事業計画書を贈呈

## 企業と共に住みやすい町へ

### 企業版ふるさと納税贈呈式・紺綬褒章伝達式

企業版ふるさと納税の贈呈式が10月14日に役場で行われ、株式会社構造計画研究所ホールディングス(本社：東京都)の服部正太代表執行役から目録が贈呈されました。町の地方創生への取り組みに対する支援に対し、金田町長から感謝状を贈呈しました。

寄附金は大津町・まち・ひと・しごと創生総合戦略における子育て支援プロジェクトの事業に活用します。また、昨年の寄附に対する紺綬褒章の伝達式も同日に開催しました。



株構造計画研究所ホールディングス  
服部正太代表執行役(前列中央)

## 宝くじ助成で地域活性化を

### 宝くじ助成事業で公民館備品を整備

この程、コミュニティの健全な発展を図ることを目的としたコミュニティ助成事業を活用して、外牧区にエアコン、椅子、テーブルなどを整備しました。このコミュニティ助成事業は、宝くじ社会貢献広報事業費を財源として、コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備などに一般財団法人自治総合センターが助成を行うものです。今後、外牧区のますますの活性化が期待されます。



外牧区公民館に整備したエアコン、椅子、テーブル

## 町内2団体が受賞

### 県北広域本部土木部長表彰

熊本県県北広域本部土木部長表彰式が10月16日に県北広域本部で行われました。これは、令和6年度の公共土木施設の清掃など維持管理活動に対して、その実績が優秀な団体や個人に贈られるものです。町からは、長田建設株式会社と有限会社田中産業が受賞しました。長田建設株式会社 代表者 長田宏二さんは「これからも精進していきたい」、有限会社田中産業 代表者 田中宏和さんは「これからもコツコツ続けていきたい」と述べました。



長田建設㈱ ながたこうじ  
長田宏二代表取締役(前列右から2番目)  
田中産業 たなかひろかず  
田中宏和代表取締役(前列右から1番目)

## 親子で感じる実りの秋

### 田んぼの学校 in 白川中流域2025

白川中流域土地改良区協議会による「田んぼの学校 in 白川中流域2025」が10月18日に菊陽町で開催されました。農業と地下水かん養のつながりを学ぶことを目的に毎年行われており、町内外から集まった小学生と保護者が参加し、6月に田植えをした田んぼで稻刈りを体験しました。足踏み脱穀機や千歯こき、唐箕など昔の道具にも挑戦し、収穫した新米のおにぎりを笑顔で味わいました。今回はカントリーエレベーターの見学も行いました。



参加者は手作業の大変さと、収穫の喜びを体で感じました